

令和4年度多面的機能支払中国四国シンポジウム in かがわ

※シンポジウム報告の資料
内容を若干変更しています。

～次世代につなげ、明るい地域を目指して～



8



出上農地・水保全活動組織



事務局長 西村 敦郎



琴浦町



人口・世帯数

2022年11月30日現在

面積	世帯	人口	男性	女性
139.89Km ²	6,457戸	16,455人	7,805人	8,650人

高齢化率

37.9%

船上山（天然の要塞）



道の駅「琴の浦」



岩牡蠣
(夏輝)



松葉蟹



梨



スイカ
(がぶりこ)



エリザベスメロン



ミニトマト



琴浦町は鳥取県のほぼ中央に位置する日本海に面した町、**農業・漁業・産業**ともに魅力ある資源が豊富で、2004年(平成16年)9月1日東伯町と赤碕町の2町が合併し琴浦町が誕生しました。なお町名は、かつて海岸一帯が琴ノ浦と呼ばれていたことに由来する。

組織の概要

(令和4年11月現在)

- ①組織名称：出上農地・水保全活動組織
- ②所在地：鳥取県東伯郡琴浦町大字出上
- ③代表者：浅田 義彰（他役員15名、代議員20名 合計36名）
- ④組織構成：11集落【27行政区】（農業者、自治会、保護者活動組織等）
（農家174戸、非農家3戸）

⑤認定農用地面積（田：6,327a）（開水路18.4km、農道4.2km）

- ・農地維持支払：1,898,100円 (3,000)
- ・資源向上支払（共同活動）：1,518,480円 (2,400)
- ・資源向上支払（施設の長寿命化）：2,783,880円 (4,400)
- 【交付金額の合計】：6,200,460円 (9,200)

13

多面増進加算 = 300円
田んぼダム加算 = 300円

(2022年度 多面的機能支払交付金 決定額)



 **琴浦町**

認定農用地 (田：6,327a) ~出上と周辺地域~

平成24年「出上農地・水保全活動組織」スタート

(琴浦町で2番目に大きな組織)

「出上圃場では、組織の立上げは無理だ！」と言われながら難産で誕生した。



平成24年4月10日
出上圃場生産者協議及び説明会
(総員42名)



平成24年5月10日
農地・水保全活動組織準備委員会
(22名)



平成24年11月2日
出上農地・水保全活動組織総会
(総員38名)

出上地区役員や近隣地区の農家代表で何度も協議を重ね、制度説明会や組織準備委員会を経て・・・！

主な取り組み概要

農地維持支払交付金

24

(1) 地域資源の基礎的保全活動

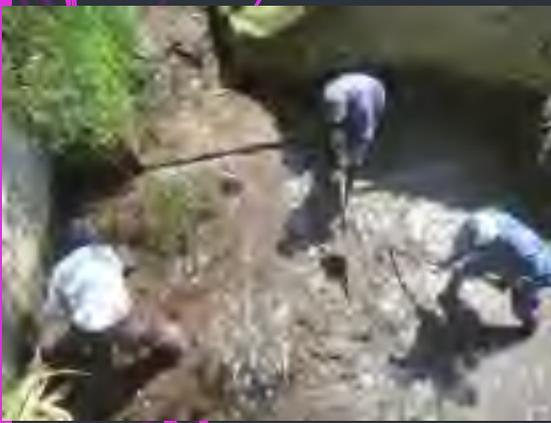
・毎年、水路(4井手)や農道の点検を行い、年4~5回泥上げ作業や草刈りを実施している。

4つの井手

- ①丹原井手
- ②友定井手
- ③大井手
- ④新井手



初の活動(集合・作業分担)



丹原井手：排水路の泥上げ作業



友定井手：排水路の泥上げ作業



大井手：排水路の泥上げ作業

新井出：堤外水路の泥上げ作業

(エンパワメントの視点から)
 ※地域コミュニティが衰退する昨今ですが、地域のコミュニティを高めるのではなく、もともと持っている「力」を「回復する」ことである。多面的機能の取組み・活動にはその可能性がある。



丹原井手…排水路の草刈り

友定井手…農道の草刈り



大井手…水路の草刈り

新井手…農道の草刈り

地域で共有している用排水路清掃・農道路肩の草刈り及び藪竹刈りは、総事として年2回実施しており、地域住民の方が広く参加しやすいよう土日に開催し、非農業者（地区自治会）を含め多くの構成員が参加している。

つながり

・多面的活動は、農家と非農家など地域住民とのコミュニケーションの場となっています。このことから、地域の多様な人材の本活動への理解と環境保全意識が高まっている。

支え合い



非農家集落による草刈り
及び泥上げ作業



丹原井手排水溝の
藪（女竹）伐採作業



排水溝の周辺草刈作業



農地周りの雑木除去

（２）地域資源の質的向上を図る共同活動 及び施設の長寿命化のための活動

1) 地域の共同活動で行う農地・施設の保全管理

- ・水路や農道などの施設に対して、毎年、定期的に点検・機能診断を行い、破損個所や老朽化部分の補修及び更新を実施しています。

軽微な補修(水路補修)



丹原井手水路部分補修



取水口の補修



令和4年11月：大井手水路補修工



景観形成活動

プランター植栽「子どもたちと花植え」6月

28



生き物調査

水路探検「軽トラ水族館」8月 出上周辺水路にて



笑顔いっぱいの参加児童



5月末「子どもたちと田植え」もち米



令和5年1月21日収穫祭：子どもたちの餅つき体験（あん餅・きなこ餅はおいしい！）



啓発・普及活動

小学校や児童館との連携

10月中旬「稲刈り」も楽しい！



労働のあとの一杯！



堤外水路の末端部



スライドゲート《水門》の新設
スクリーン付き（新井手）



設置前（鉄板）



赤碕文化センター前
用水路コンクリート底打ち



防災・減災意識から「田んぼダム」の取組み

32

本地域を流れる勝田川は、過去に幾度となく氾濫していくことから自主防災組織が活動するなど防災・減災意識の高い地域です。また、近年の集中豪雨による河川増水の度に避難情報が出されており、危機意識が高まっている状況から、農業サイドの役割りとして、令和3年度からは自作のせき板を希望者に配布し、田んぼダムの取組みを地域全体へ推進しているところです。



勝田川の氾濫



平成19年の土石流



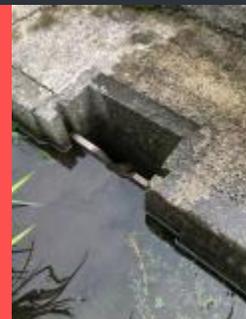
自主防災訓練 (赤碕文化センター本部)



丹原井手大型排水路の増水 (越水) 災害



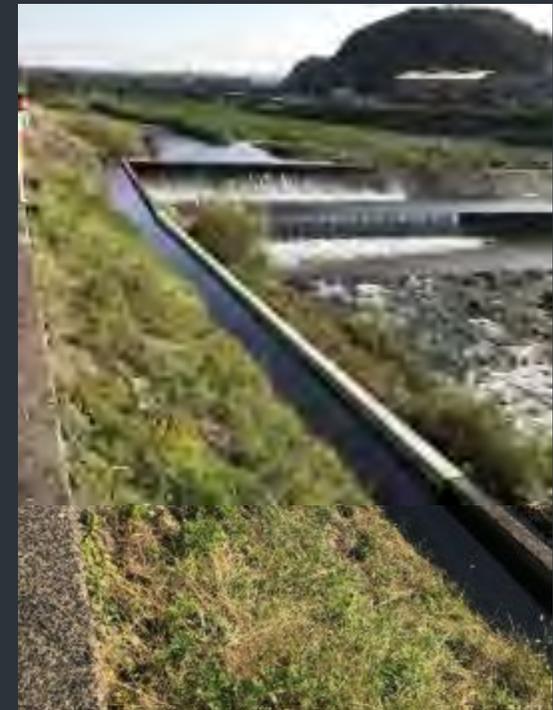
「田んぼダム」の取組 せき板・幟の設置





洪水のイメージ（勝田川成美橋下流）

※写真は2018（平成30）年9月30日未明の台風24号（日降水量：218mm、最大瞬間風速24.7㍓、琴浦町内の死者1人）



平成29年7月6日から7日にかけて梅雨前線の停滞と台風の接近に伴い提外水路(側壁)が損壊、7月11日に仮設パイプを設置・・・その後、緊急水路修繕工事に着手（新井手）11月20日



※ 「洪水」は災害である。
【梅雨前線・台風・ゲリラ豪雨は、樋門と各ゲートそして排水路をパトロール】

※ 「渇水」も災害である。
【7月末～8月中旬は、農業用水（水田）の垂れ流しパトロールを実施】

 **琴浦町**

認定農用地（田：6,327a） ～出上と周辺地域～



畦の嵩上げ（着工前）



畦の嵩上げ（畦付け）



畦の嵩上げ：（盛土・転圧）

「田んぼダムの取り組みがもっと広がることで、更なる効果が発揮できると思う。自分たちが実践することで、周りにも波及させていきたい。」



丹原井手代表
今藤、福本

新井出代表
真山

大井手代表
山本、澤田

田んぼを防災・減災に活用
「田んぼダム」の取り組み開始!



「田んぼダム」 幟とせき板



多面的機能を発揮！
「田んぼダム」 実施中！
 （田んぼダムは、洪水被害リスク等を低減させる取組みです）

田んぼダム用のせき板には、1枚板のものや、上下2枚に分割できるものもあります！

田んぼダム用のせき板 **通常のせき板**

※ 通常のせき板の高さを超える水位になってもゆっくりに漏水できるよう、それぞれの田んぼに合わせてせき板の形状を調整しています。

田んぼダムの仕組み

田んぼダム用のせき板（15cm～25cm程度） 通常のせき板（10cm程度）

「田んぼダム」は、大雨時に河川や水路の水位の急上昇を抑制することで、下流域の洪水被害リスク等を低減させることを目的としています。
 水田からの流出量を抑制するために、田んぼダム用のせき板（排水調整板）を設置する等により、一時的に田んぼの雨水貯水能力を人為的に高める取組みで、地域全体で洪水に備えるための一助となるものです。

せき板の設置例

※ 出上農地・水保全活動組織は、農地を含め地域社会を次の世代につなぐため、更なる防災・減災の取組として田んぼダムの取組を開始しました。

出上農地・水保全活動組織

こんな活動もやっているよ！
 （SDGの目標に関わっている）

小川探検「生物の生息状況の把握」

田んぼ（もち米）でワイワイ田植！

他の集落に波及すると、船上山ダムの貯水量（520,000 t）の約30%分を「田んぼダム（15cm）」で貯めることができる！

活動において成果と課題



37

《取組んで良かった点》

- ・ 災害後（台風・洪水等）の対応を早くできるようになった。
- ・ 水路の補修と合わせて、全体を通して泥上げを行うようになった。
- ・ 下流域まで十分な用水が流れ喜ばれている。
- ・ 事業を契機に水系の実態が分かって、問題の把握ができるようになった。
- ・ 非農家の参加及び子どもたちの参加（花の植栽、田植え体験、生き物調査等）が増え好評である。
- ・ ゲート樋門（3ヶ所）を設置したことにより、ゲリラ豪雨等に対応ができ、地域から大変喜ばれている。
- ・ 出上地区と周辺地域の人たちが活動を通して交流ができた。
- ・ 出上圃場の問題点や課題が農地・水保全活動組織に集中し、情報が集約されてきている。
- ・ 周辺地域の人達が会合等で文化センターに足を運ぶようになり、当センターが本活動を含めた多機能な拠点として認識されている。

《今後の活動目標や課題》



- ・ 4井手の関係者が協力し合う体制を強化し、更に共助的な意識を高めたい。
- ・ 本組織のエリアをパトロールする体制の整備・強化（遊休農地、災害の備え、用水確保、用水垂れ流し等）
- ・ 勝田川水系に存する多面組織が情報交換できる場を設置し、関係機関を含め流域治水を考えていきたい。
- ・ 年間を通して水を必要とする施設ハウス（水田）は対象農用地から外されている。今後、水系の当事者でもあることから、対象農用地への組入れの検討や連携が必要である。
- ・ 今は、個別営農をはじめとして中核的な担い手への作業委託により地域農業が維持されているが、今後、担い手の育成が急がれる。

最後に・・・

39

本日、報告しました多面的機能支払活動に取り組んでいるこの「出上」は、成美村事件（小作争議）の中心舞台で、『命と暮らし』を守るため闘ってきた歴史があります。そして、誰よりも「人と農地」を大切にする人たちの歴史もあります。

「**仲間と支えあう文化**」その 培われた土台があるからこそ、新たな取組みとして「人づくりや地域づくり」に汗しなくてはならないと考えています。

今後とも「**ふる里を誇れる**」活動として、多くの仲間とともに頑張っていきます。

第11回『ディスカバー農山漁村(むら)の宝』交流会(令和7年1月7日)首相官邸



首相官邸：石破総理、林官房長官、江藤農林大臣、林座長、伊藤大臣、各有識者委員、各地区代表者



石破総理「あいさつ」



西村事務局長、林座長、江藤農林水産大臣、浅田会長、伊東内閣府特命担当大臣

浅田会長が石破総理に「田んぼダム」の説明
石破総理「出上は田んぼダムいつからやってるの？」



石破総理が西村事務局長に「軽トラ水族館」？「地域食堂」を質問、西村（説明）…石破総理「ありがとう！」



他、西村、永島委員、浅田会長、石破総理、江藤大臣、他

